民報 あばしり
NO.1343
11月28日号
発行所
日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
TEL 四二一－四四五八
FAX 四二一－四四五七

網走市議会　29日に臨時会

福祉灯油を早急に！

網走市議会は、29日に臨時会を開催します。灯油の価格が高騰し、生活困窮者は苦境に追いやられていることから、市は福祉灯油事業を、また、コロナ禍の宿泊施設を応援する事業の補正予算を提案する予定です。

福祉灯油助成事業

助成の対象となるのは、市民税が非課税の世帯で、かつ、高齢者世帯、障がい者世帯、一人親世帯、生活保護世帯となります。福祉施設や入院している方は除かれます。

また、助成額は1世帯あたり1万円となります。助成方法は暖房用燃料券を交付する予定です。暖房装置の種別により、暖房用燃料券が使用できない場合は現金の支給とします。

議員団も緊急要望

これに先立ち、日本共産党議員団は、市民から灯油価格高騰で生活が困っている声を受け、11月9日に市長に福祉灯油事業の実施を求める緊急要望書を提出していました。今回の市の対応は時勢にかなったものだと言えるでしょう。これからも市民の声を届けることを続けていきます。

宿泊費助成事業

また、コロナ禍で低迷している宿泊需要を呼び起こす対策として、宿泊費の助成を行う予定です。時期は来年3月から5月で、インターネット予約やそれ以外の事業者も助成する予定です。

広島の高校生からのメッセージ

高校生の絵展

新日本婦人の会網走支部は、「高校生の絵展をエコーセンターにて行います。

広島市立基町の高校生は毎年、被爆体験証言者の方とともに「次世代と描く原爆の絵」を制作しています。その作品（40点）を展示するとのことです。会員さんは、被爆の実相と平和へのメッセージを感じていただければと言っています。

エコーセンター１階展示室
12月11日 10時～午後6時
12日 9時～午後5時

拡大鏡

総務省の暴戦メモ？

総務省は12日、「福祉灯油」など自治体の独自補助について、生活者や事業者に対し支援をするために行う原油価格高騰対策に対し、「特別交付税」（措置率2分の1）を出すことを決めました。

今回の対象となる例として、①生活困窮者に対する灯油購入費等の助成②社会福祉施設に対する暖房費高騰分の助成③公衆浴場に対する燃料費高騰分の助成④漁業者等に対する燃油高騰分の助成などです。全国どこでも年末に向けた暮らしと営業への支援が求められています。

私も12月議会の一般質問で取り上げる予定ですが、質問の準備をしている時に、タイミングよく党中央の方から情報が入ってきましたので、参考にして質問する予定です。コロナ禍が長期化し、暮らしと営業を守る取り組みが年末に向けて求められますが、岸田政権のコロナ対策と各種給付金制度は極めて不十分です。国に対して、改善を求めながら質問したいと思っています。

村ちゃん駆ける

8月頃から中央橋のたもとで工事が行われていて、気になって調べてみると、網走開発建設部の工事で中央橋の下に遊歩道をつけるための工事ということです。昨年、網走橋の下に四角い箱の遊歩道ができ、エコーセンターからモヨロ貝塚へ川沿いを歩けるようになりましたが、同様の箱を中央橋にもつけるということです。今年は、網走川の護岸工事、来年から箱の工事となるようです。

網走の顔ともいえる網走川ですが、網走川を中心としたまちづくりとして、30年以上も前から整備が行われています。エコーセンターなどの公共施設や駅、バスなどの公共交通機関などがあり、市民や観光客が歩いてゆったりとした時間を過ごすことができる空間をつくるのが目的です。

先日、市民の方から、新庁舎の駐車場を休日は市民が無料で駐車できるようにしてほしいと要望がありました。中心市街地に気軽に市民が集まれるようにする議論が必要です。

流氷

11月の初旬、道脇の草むらでトンボの姿を見かけました。夏の虫をイメージですが晩秋にも姿をみせます。おそらくノシメトンボでないかと思います。▼トンボと言えば、成虫のままで冬越しするものがおります。オツネントンボです。トンボ目・アオイトトンボ科に属する体調34～37㎜くらいのイトトンボです。全身が褐色で、背面に銅色の斑紋が雌雄ともあります。これより少し体長の大きいホソミオツネントンボは、越冬すると鮮やかな水色に変化しますが、オツネントンボは褐色のままです。▼どうやって厳しい冬を越すのでしょうか。雪のない地域に生息するものは、草むらや樹間で冬越しするのだそうですが、北海道のものは雪の布団に埋まり寒さをしのぎます。6月雪解けとともに産卵し、約3カ月で羽化し、成虫はそのまま越冬します。網走では、呼人半島や刑務所博物館の池などで見ることができます。▼このトンボの生きざまを見習い、今回の選挙結果にめげず、野党共闘を促進し連合政権を樹立し希望ある日本に変えるため共に頑張りましょう。

博物館友の会
会員　小　森